

# 復帰 50 年のあゆみ

# 「本土復帰 50 年」これからも安全・安心で快適な「やんばる」の道づくりを進めます

仲泊バイパス全線開通 (昭和50年)

名護バイパス全線暫定開通 (昭和61年)

ウテナトンネル開通 (平成元年)

名護横断道路全線開通 (平成4年)

大宜味拡幅一部開通 (平成5年)

石川バイパス一部開通 (平成8年)

旧塩屋大橋「撤去式」 (平成11年)

宜野座改良一部開通 (平成21年)

恩納南バイパス全線暫定開通 (平成30年)

金武バイパス全線開通 (平成31年)

名護東道路全線暫定開通 (令和3年)

ごあいさつ

内閣府 沖縄総合事務局 北部国道事務所長 大城照彦

北部国道事務所は、昭和47年5月、沖縄の本土復帰と共に沖縄開発庁の出先機関として設置され、この50年間、主要国道の整備、維持管理を通して、北部地域の安全・安心、社会・経済活動の活性化に寄与すべく、様々な事業に取り組んできました。道路利用者、地域および関係者の皆様には、平素から北部国道事務所の道路行政に対するご理解とご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

(本土復帰から昭和の時代)  
 本土復帰により軍道・琉球政府道などの主要な幹線道路は、一般国道に指定されますが、復帰当時の道路は、線形不良や狭幅員、波浪による越波、落石・土砂崩落の危険箇所など、様々な課題が多くありました。昭和50年に開催された沖縄国際海洋博覧会、昭和53年の交通方法変更(730)などに向けて、そうした課題を解消するとともに、本土との格差を縮小する取組みが実施されました。

(昭和から平成、令和の時代へ)  
 北部地域には、亜熱帯特有の自然環境、観光拠点が多数存在しています。コロナ前まで観光客は年々増加傾向にあり、令和元年には1000万人を突破しました。伝統行事や各種イベント、スポーツキャンプなど、年間を通して賑わっており、それに伴い観光交通による交通渋滞や事故が、大きな社会問題となりました。「地域生活の安全・安心を支える道づくり」はもとより「地域の産業・交流(観光)を支える道づくり」を実施してきました。

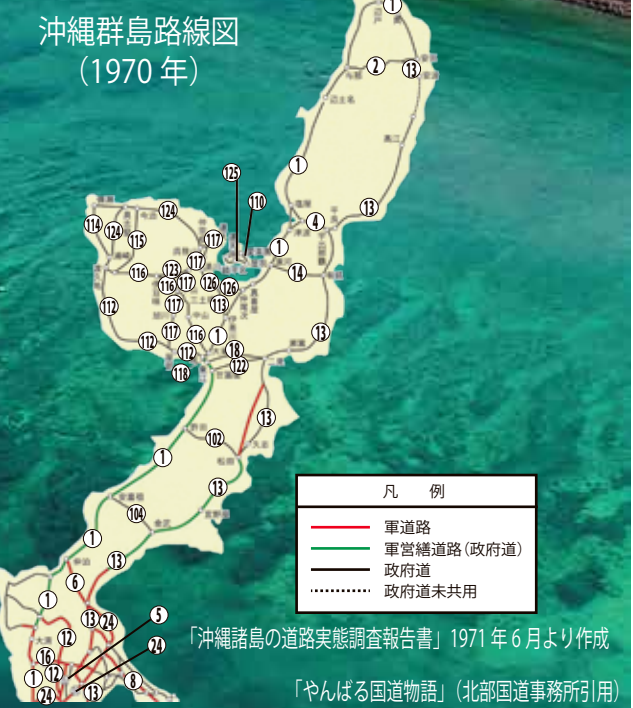
また、令和3年には、やんばる3村が世界自然遺産に登録され、やんばるの魅力が世界へ発信されています。道路と小動物との共存を目指して「環境に配慮した道づくり」にも力を入れています。

(アフターコロナの時代へ)  
 今年は、沖縄が本土に復帰して50周年にあたります。北部国道事務所は、コロナ禍の新たな生活様式のニーズへ対応するとともに、アフターコロナを見据えた観光・経済活動のV字回復を支援すべく、北部地域の振興・発展にむけた取り組みを進めてまいります。

○琉球政府時代の道路  
 復帰前の道路は、軍道及び政府道が骨格を成していました。右側交通や道路標識のマイル表示など、本土とは異なる交通運用が実施されていました。本土復帰により「1号線」は「国道58号」となり、沖縄振興開発計画のもとに多くの事業が推進されました。



復帰前(昭和38年)  
 車両は右側通行、標識は日・英二ヶ国語表記  
 (左:「速度制限20マイル」、右「横断歩道」の標識)



○やんばるの環境に配慮した道づくり  
 令和3年7月やんばる3村が世界自然遺産に登録されました。北部国道事務所は、やんばるの小動物との共存をめざして、安全に暮らせる環境づくりに努めています。

昭和56年 新種「ヤンバルクイナ」発見

平成8年 カニさんトンネル設置(喜如嘉地区)  
 平成12年 カニさんトンネル設置(伊地地区)  
 平成18年~28年 カニさんお助け隊

平成12年~ 注意標識設置  
 カニ注意  
 カメ注意  
 とび注意

平成19年~ クイナフェンス設置  
 平成22年 クイナトンネル設置

平成28年 ウミガメ道路侵入対策  
 道路照明灯のカットルーバー

令和3年 やんばる3村世界自然遺産登録

事務所沿革  
 北部国道事務所は、昭和47(1972)年5月15日沖縄の本土復帰に伴い、沖縄開発庁(現内閣府)沖縄総合事務局の出先機関として設置され、昭和49年に世富慶、平成16年に現在の名護市大北へ移転し現在に至っています。



	所在地
昭和47年5月15日	北部国道事務所設置 新垣材木店3階(名護市名護389番地)
昭和49年11月	世富慶庁舎 RC造2階(名護市字世富慶865番地)
昭和58年4月	国頭維持出張所設置(名護市字名護4618-34)
昭和63年12月	国頭維持出張所を名護維持出張所へ改名
平成2年10月	石川国道出張所設置(うるま市石川12288番地)
平成16年3月	現庁舎 RC造3階(名護市大北4丁目28番34号)

名護維持出張所 石川国道出張所

沖縄北部の国道情報提供サイト  
 やんばるロードネット  
 58 329  
 http://www.dc.ogb.go.jp/hokkoku/

■お問合せ先  
 内閣府 沖縄総合事務局  
 北部国道事務所  
 TEL.0980-52-4350

# 北部国道管内道路事業 50年のあゆみ

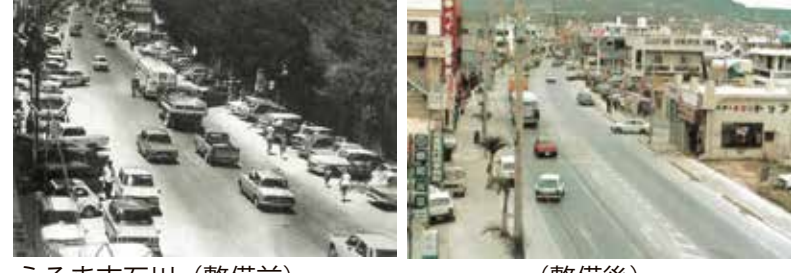
～ 本土復帰から50年、北部地域の安全・安心、社会・経済活動の活性化に寄与すべく事業を推進してきました～



名護市数久田 (整備前) (整備後)



国頭村宜名真トンネル付近 (整備前) (整備後)



うるま市石川 (整備前) (整備後)

## ○海洋博関連事業

昭和50年に開催された海洋博に関連して那覇から会場までの来場者の輸送確保のため、国道58号(名護市世富慶～許田・恩納村前兼久～山田)の4車線拡幅及び局部的な改良を行いました。

## ○権限代行施工(国頭村奥～宜名真道路)

国道58号奥～宜名真間は、当時沖縄県の管理区間でしたが(昭和58年より国管理)、一部区間が交通の難所となっており安全性確保が急務だったため、宜名真トンネルを含む同区間を整備しました。

## ○潰地内整備事業

主に金武町・うるま市石川の人家連担部において、既存道路の幅員内で交通安全施設(排水施設・歩道・横断歩道・照明など)の整備を行いました。

## ○地域生活の安全を支える道づくり

名護以北では、国道58号が集落間を結ぶ唯一の生活道路・通学路になっているため、集落の孤立を防ぎ安全な通行を確保するために、災害危険箇所(越波、落石、土砂崩壊など)の防災対策(トンネル整備・橋梁整備、法面工事・道路面嵩上げなど)を進めてきました。

## ○地域の産業、交流(観光)を支える道づくり

物流や交流を支援し北部地域の振興・発展に寄与するために、道路の交通容量拡大と地域間の幹線機能を強化するバイパス整備、北部地域と中南部地域の移動時間の短縮を目的とした地域高規格道路などの整備を進めてきました。

## 主な事業

- 58号防災(ケンダトンネル)
- 座津武防災(宇嘉トンネル)
- 謝敷拡幅
- 与那防災局改(新与那トンネル)
- 宇良拡幅
- 辺土名・国頭道路(辺土名トンネル)
- 大宜味拡幅(塩屋大橋)
- 大宜味・名護道路(平南橋)



謝敷拡幅

与那防災局改



大宜味拡幅(左:旧塩屋大橋 右:塩屋大橋)

## 主な事業

- [国道58号]
- 伊差川バイパス
  - 名護バイパス
  - 名護東道路
  - 恩納バイパス
  - 恩納南バイパス
  - 読谷道路

- [国道329号]
- 名護横断道路
  - 宜野座改良
  - 金武バイパス
  - 石川バイパス



恩納バイパス

恩納南バイパス

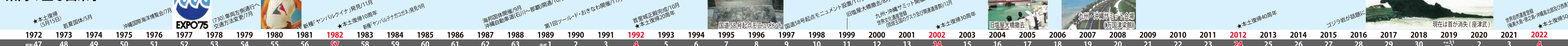


読谷道路

読谷道路 完成イメージ



## 県内の主な出来事



## 管内の主な道路事業

